



島Pだより

No.46

2021.3



コロナと向き合うPTA活動

島根県PTA連合会

会長 原 完次

平素は島根県PTA連合会の活動に対しましてご理解とご協力をいただきありがとうございます。

さて、令和2年度はコロナウイルスの感染拡大により、多くの子どもたちが楽しみにしていた学校行事、部活動などの大会や発表会が中止になり辛い制限の中で学校生活を過ごさしてしまう一年となってしまいました。また多くのストレスから学校に行きづらさを感じる子どもが増えていることも心配です。PTAは子ども達に寄り添って、このような課題について一緒に考え改善をしていく役割を持っています。しかし、感染拡大の事を考えると集まってなにかをすることも難しい状況です。

その中で、多くのPTAでオンラインでの研修会や授業体験など感染予防対策を行った新しいスタイルの事業を企画し活動をされるなど、子どもたちの学びを止めないために保護者、教職員の皆さんが知恵を出し合って活動を続けていただいています。

そこにオトナのやる気で子どもたちを元気にしようとする熱い思いを感じます。

令和3年度は益田市において「日本PTA中国ブロック研究大会 島根県益田大会」を11月6日に開催する予定となっています。益田市PTA連合会の皆様には前例のない状況での大会開催をお願いすることになります。現在、通常の大会スタイルとオンラインとのハイブリッド開催実施に向けて準備を進めていただいています。今後は大会開催についての進捗状況を県PTA連合会のホームページを刷新し情報提供をしていく予定です。

未だに収束が見えない中、思うようなPTA活動ができない状況ではありますが、誰もが参加しやすいPTA活動を行うために、多くのオトナの力を結集し、今の時代にあった新しいスタイルに変えて行くチャンス時期だと思います。これからも保護者同士の繋がり、単位PTA同士の繋がり、そして地域・学校との繋がりを最大限に活かしていくことが重要だと考えておりますので、引き続きご理解とご協力を頂きますようお願い申し上げます。

三行詩

～日常の一コマを言葉にとどめて～

厚生委員会委員長 柳井 直樹

厚生委員会の主な事業として、今年度は益田市が三行詩の募集と審査を行いました。

前年度末からのコロナ禍への配慮から、全国審査の締め切りが6月から8月へ延期されたのですが、小中学校の臨時休業の影響もあってか、例年より応募数が若干減少しました。しかしながら、小学校の部8校201点、中学校の部5校32点、一般の部7校15点、合計248点の三行詩には、親子の心温まる様子や、自粛期間中に抱い

た学校やクラスメイトへの思い、日常のありがたさなどがつづられていました。7月の1次審査、8月の2次審査では、審査員の顔もほころび、ほっこりとした空気感が漂いました。応募した子どもや保護者の皆さんも、家族や友だちの顔を浮かべながらきっとあれこれ頭をひねったことでしょう。それを想像しながらの審査は楽しくも、悩ましいものでした。

全国審査では島根県の作品が佳作に2点入賞し、嬉しい結果となりました。

来年度も日常の中にきらりと光る一瞬を言葉にとどめた作品をお待ちしています。どうぞ多数のご応募をいただきますようよろしくお願いいたします。

オンライン授業を 体験してみてください

母親委員会委員長 中村 美帆

島根県母親委員会は鹿足から隠岐まですべての市郡から1名ずつの女性が集まってできている委員会です。この研修をどのように企画したと思いますか？顔合わせからすべてWeb会議で活動を行ってきました。会えば1回で済むことがなかなか進まなかったこともあります。数回に分けて会議をしたり、参加できなくても意見をいただいたり情報を共有してきました。その結果が今回の研修開催となっています。

今年度は松江市教育委員会の若槻徹先生に講師をお願いし、少人数で実際の小学校の電子黒板を使い、現地参加者はWi-Fi環境がない子や留守番困難の子の役、遠方の方はZoomで自宅にいる子どもの役という設定で研修を行いました。これからの授業がどのように変わっていくのか、ネットとの付き合い方などを聴き、教室とZoomの人と一緒に歌ったり、ゲームやグループワークなどをしました。

良かった点は、顔が見えるだけでも、友達に会えずに家にいるだけよりはいい、いろんな可能性がありそうという意見がありました。気づきの部分は、先生役をした際、画面と教室の人と、自分の手元を見ながら話さなければならず、ツールやパソコン、マイクなどの事を知らな

いために映像が流れない、音声が届いていないなど、まず授業する前に設備の問題や機材の準備、環境、それに詳しい人材が学校現場に必要であると思いました。課題は多いですが、授業の参加方法なども可能性広がると感じました。また視力などへの影響はどうだろうかなど、疑問も上がりました。

現在子どもたちの学校教育は私たちの子どもの頃とは違い著しい変化が起きています。この研修を通して強く実感しました。その変化を学校や子ども任せにすることなく、親も知らなければいけないと思います。そのためにも学校と保護者が一緒に学び合い、情報を共有していき、子どもたちのより良い学習環境を作っていけるように関わっていく必要を感じました。まず先生と保護者と一緒にオンライン授業体験をしてみてください。何か気づきがあるかもしれません。



令和2年度 文部科学大臣・日P会長賞・広報紙コンクール

島根県PTA連合会 受賞団体及び個人

①文部科学大臣優良PTA 団体表彰

奥出雲町立亀嵩小学校PTA
松江市立川津小学校PTA

②日本PTA全国協議会 会長表彰

個人 江津市:竹下 壽一

③日本PTA全国協議会 広報紙コンクール

「日本教育新聞社 社長賞」
安来市立第一中学校PTA



(1月16日特別委員会にて表彰)

「受賞にあたって」

松江市立川津小学校PTA 会長 雨川 益男

この度、令和2年度優良PTA文部科学大臣表彰を受けることとなりました。特色ある活動を長年にわたって取り組んでおられる県内のPTAにあって、川津小PTAでの取組を評価いただいたことに感謝を申し上げます。

川津小PTAの活動の一つ「夏休み子どもの居場所づくりプロジェクト」について紹介します。

PTAのアンケートで「保護者の勤めの関係で、夏休みの平日を子どもだけで過ごす」ことへの不安の声がありました。PTA単独ではこの課題解決は難しいと考え、PTA、公

民館、地区社会福祉協議会ほか地域の各団体と協議を重ね、平成29年度より「夏休み子どもの居場所づくりプロジェクト」を発足しました。4年生以上を対象に工作・調理・見学など14の各団体主催のイベントを企画・実施し、延べ700名の申込みがありました。今年度はコロナウイルス感染症の状況下にあっても「こういう時こそ知恵の出どころ」と前向きに捉えていただき継続することができました。地域全体をあげての活動となり、地域の方と小学生とのふれあいの場となるなど、地域の皆さんと取り組めた意義は大きかったと思います。

今回の表彰を励みに今後も地域・学校との連携を深めてPTA活動を行っていきたいと思います。

広報紙コンクールの 受賞を受けて

安来市立第一中学校PTA 会長 山根久美子

この度、教育新聞社社長賞をいただきましたこと、とても栄誉のあることと感動しています。ありがとうございました。

広報紙「清流」に与えていただいた栄誉は、安来一中

PTAの活動や想いを、どのように伝えられるのかと、一緒に悩み、話し込みながら編集作業をしてきた部員や役員、教職員の皆様のお陰であると実感しております。

この度の受賞に対し、心から感謝いたしますとともに、今後も、学校・保護者・地域がつながる広報紙を発信していけるよう、みんなで楽しみながら活動していきたいと思

PTA 活動紹介

【隠岐地区】

子どもの励みとなる活動をめざして

隠岐の島町立西郷中学校

会長 森 一成

西郷中学校は島後の玄関口である西郷港近くにある生徒数150名、PTA会員数150名の学校です。本校PTAの主な活動として、PTAたよりの発行、PTA研修会の開催、夏季に行う環境整備活動などを行っています。

例年、PTAたよりは各学期に1回発行していましたが、令和元年度より2カ年の人権教育「PTA活動」育成事業の指定を受け、今は学期に2回のペースで発行しています。たよりのタイトルは「かけはし」といいます。これは紙面を通して、生徒の活動の様子や感想を保護者に伝えるとともに、保護者の思いなども励ましのメッセージという内容で生徒へ伝えるものです。保護者の皆様からたくさんのメッセージを寄せていただき、あたたかみのある内容となりました。

また、今年度はコロナ禍の影響で実施できませんでしたが、昨年度は本校学園祭や島後小中学校音楽会、全隠岐駅伝大会等にあわせて、PTA役員が中心となって作成した保護者からのメッセージボードを生徒昇降口に設置させても

らいました。生徒が笑顔でメッセージボードの周りに集まっている様子を学級通信等で見たときには、たいへんうれしく、やってよかったと思いました。

今年度は計画通りに活動できないことが多く、新型コロナウイルス感染症の収束を祈るばかりですが、今後も子ども達の健やかな成長のために学校との連携を密にして、様々な活動を積極的に行っていきたいと考えています。



学園祭でのメッセージ募集の活動



設置されたメッセージボードを見る生徒たち

【松江地区】

千鳥のお堀を学ぶ会の発足

松江市PTA連合会

第一ブロック常任理事 中田 光俊

我々が住む島根県松江市には、国宝に指定されている「松江城(別名千鳥城)」があり、お城の周囲は堀に囲まれ、多様な水環境を有しています。明治時代はハスの花が咲き乱れ県内有数の観光名所だった「松江堀川」も、昭和50年代の生活排水の流入により一時期大きく汚れてしまった歴史があります。その後、汽水湖である宍道湖の導水や下水道整備により堀川の水質は徐々に改善され、今では年間30万人の観光客が堀川遊覧船を目当てに来訪しております。

2019年5月、国宝松江城周辺の小・中学校5校(松江市立第一中学校 内中原小学校 生馬小学校 法吉小学校 城北小学校)PTA会長・保護者で「ふるさと学習による地域人材の育成にはどのような活動が必要か」話し合った結果、「松江城周辺で育つ子ども達ならではの具体的な活動として、堀川に着目。堀川の歴史や水質や生き物を学ぶことで、子ども達に地域への愛着を持って貰いたい」と有志で「千鳥の堀川を学ぶ会」を発足しました。

会の発足後、松江第一ブロック千鳥の杜学園地域推進協

議会に所属されている校長先生、公民館長、地域住民の皆さんからもアドバイスを頂き、「折角やるなら大人も子どもも面白く感じられる活動」を目指すこととしました。

これまで、2019年8月18日(日)、2020年9月22日(祝)2年連続で松江堀川にて啓発イベントを県・市・学校・公民館・民間企業の後援を得て開催。小・中学生、保護者、関係者約120名で、約2トン分の藻刈り清掃を行った後、カゴ罟や投網 タモ網を使った生き物調査を実施してきました。

今後も「地域の宝」とも言えるこの「松江堀川」の水環境の整備活動や歴史を子ども達と共に学び、子ども達に「ふるさとへの愛着を強くして貰いたい」「素晴らしい景観を次世代の子ども達に残したい」という想いで活動していきたいと考えております。



【出雲地区】

コロナに負けるな！ 熱い気持ちで！

飯南町立頼原中学校

会長 高橋 彰治

頼原中学校は、標高約450mに位置しています。生徒数は46名です。

今年度は、新型コロナウイルスの蔓延により、PTA活動のいくつかをやむを得ず中止・変更せざるを得ませんでした。こうした状況下で、初めてオンラインによる研修会なども実施しましたが、最も今後の手本となった活動は、3年PTA親子活動だったと思います。

PTA活動だけでなく、学校行事や部活動の大会も中止・延期・縮小される中、しかも、1・2年はPTA親子活動を中止したにもかかわらず、3年保護者は、学年委員さんを中心に熱い気持ちをもって「中学校生活最後の行事や大会が中止・縮小され残念がっている3年の子どもたちのために何とかしよ



う。」と感染防止策を取りながら実施に尽力されました。

その内容は、屋外での竹切り大会&ウルトラクイズを真似たハードなクイズ大会でした。密閉を避け、密集・密接をできるだけ避けた形態で、自然とのふれあい、人とのふれあいを盛り込んで盛大に行われました。

この活動は、正に「コロナに負けるな!」を体現していました。避けるばかりでなく、感染防止策を取ってコロナに立ち向かった活動、PTA活動の役割の一つである子どもたちの健全な成長を支援する活動になりました。

今後も感染拡大状況が余程ひどくならない限り、感染防止策をきちんと取った上で、やっていける活動を考え出し、実施したいです。なぜなら、この困難を何とかして乗り越えようとする力は、子どもたちに身につけてもらいたい力であるからです。

最後に、一刻も早いコロナの収束を願っていますが、たとえ長引いたとしても、大人の私たちがコロナに負けず熱い気持ちをもって活動する姿を子どもたちに見せることが、子どもたちの健全な成長につながると信じています。



【浜田地区】

できることに全力投球!

邑南町立矢上小学校

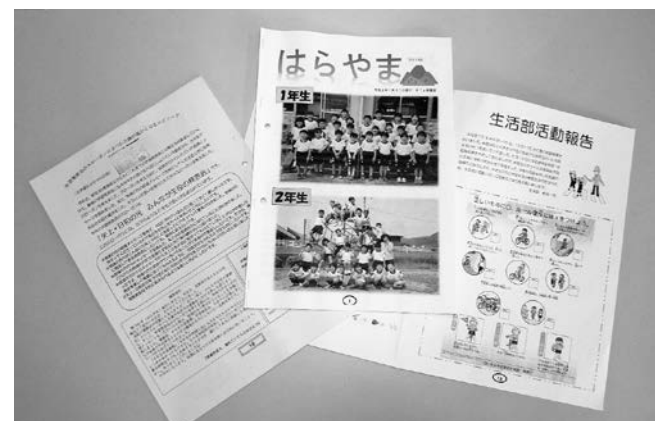
会長 石橋 知之

昨年度末から猛威を振るっている新型コロナウイルス感染症により、PTA行事の実施が困難な中スタートした令和2年度でした。しかし、PTAとして子どもたちのために何かできることはないかと役員会で意見を出し合いながら模索してきました。春のPTA奉仕作業については、密を回避するために役員のみで行いました。さらに、学校に来る機会が極端に減ったこともあり、学期に一回発行しているPTA便り「はらやま」において、子どもたちの様子をできるだけ詳しく掲載しました。毎年行っている自転車教室も中止となりましたので、「自転車の点検・乗り方」についてのページも追加しました。予算も諸活動が中止になったためカラーページを増やしての発行にしました。

また、学習発表会を学年ごとの発表にし、保護者を発表ごとに入れ替えることが決まり、PTAに協力依頼がありました。役員を中心に受付や観客の入れ替えの誘導、控室の点検等の仕事を行いました。自分の子の発表しか見ることができま

せんでしたが、ゆったりと見ることができましたし、何よりも学習発表会を開催して下さった学校に感謝です。

新型コロナウイルスの感染拡大がとどまらない中、新しい生活様式を取り入れながらPTAと学校が連携を図り、よりよい教育活動について考えていかなければならないと思います。大勢で集まることが難しいなら、少人数で、短時間で、と発想の転換が迫られていると感じています。一日も早い新型コロナウイルス感染症の終息を願っています。学校の応援団として、知恵を出し合い、できることを全力投球で行っていきたいと思います。



【益田地区】

大嶋啓介氏講演会 『「誰にでも可能性がある」 ～夢を大切に生きる生き方、仲間を 大切に生きる生き方～』を通して

益田市立横田中学校

会長 柳井 直樹

2020年度はコロナ禍により様々な学校活動が縮小を余儀なくされました。本校のPTA親子研修会も開催が危ぶまれましたが、規制が緩和された期間の12月2日に講演会を行うことができました。メンタルトレーナーである大嶋氏の講演会ではマスクをしたままではありましたが、誰もが笑顔で「いいね!」と声にし、コロナ禍による閉塞感を吹き飛ばすような明るいムードが会場を満ちました。

日本の子どもの「自己肯定感・自己有用感」が先進国の中でも極めて低いといわれていますが、大嶋氏のお話を伺っていると誰もが自分の可能性を信じ、潜在能力を最高のパフォーマンスにしていこうという思いや力がわいてきました。たとえネガティブな感情が心を占めたとしても、人は「言葉」「動作」「表情(笑顔)」で切り替えることができるということ。「本気のじゃんけん」(じゃんけんをした後、勝っても負けても雄たけびを上げてハイタッチをする…今回はエアタッ



チでしたが)で体感することができました。

「人生でうまくいく人といかない人の違い」は「思いこみの差」であると大嶋氏は言います。脳が「できる」と思い込んでいるか、「どうせムリ」と思い込んでいるか…。脳は「思いこみ」を実現してしまうことを、脳科学や様々な例を示して紹介されました。親として、子どもの「夢や可能性」を信じて日々接しているか、また、親自身も自分自身の人生を前向きに生きているか…。大いに考えさせられました。

来年度は、益田市で第51回日本PTA中国ブロック研究大会が開催されますが、この度招聘した大嶋氏の記念講演を計画しています。親子の今後の生き方の指針となるようなお話が伺えるはずで、皆様、ぜひご参加いただき、一緒に元気にしましょう!お待ちしております!



事務局だより

令和3年度事業について

1. 広報紙コンクール

- (1) 応募締切日 令和3年3月31日(水)
- (2) 応募条件
 - ・年1回以上発行していること(これまででは2回以上)
 - ・それぞれ各3部ずつ送付

2. 県P連会長表彰

- (1) 団体締切日 3月26日(金)
- (2) 個人締切日 4月23日(金)



3. 大会等の予定

- (1) 新旧役員会 6月5日(土)午後～ホテル白鳥
- (2) 委員総会 6月6日(日)午前10:00～ホテル白鳥
- (3) 日P北九州大会 8月21日(土)予定
- (4) 日本PTA中国ブロック研究大会島根県益田大会
11月6日(土)
- (5) 幼こども園・小中・高・特別支援PTA連絡協議会研修会
11月27日(土)(会場:松江市)
- (6) 理事・事務局長会
2022年2月26日(土):松江市



令和2年度

島根県幼こども園・小中・高・特別支援PTA 合同研修会

講師 石橋美恵子 氏(島根県東部発達障害者支援センターウィッシュ所長)

研修テーマ

『みんなちがうからおもしろい 十人十色 それぞれの自分色』

○期日：令和2年11月28日(土)

○会場：島根県立男女共同参画センター あすてらす(大田市)

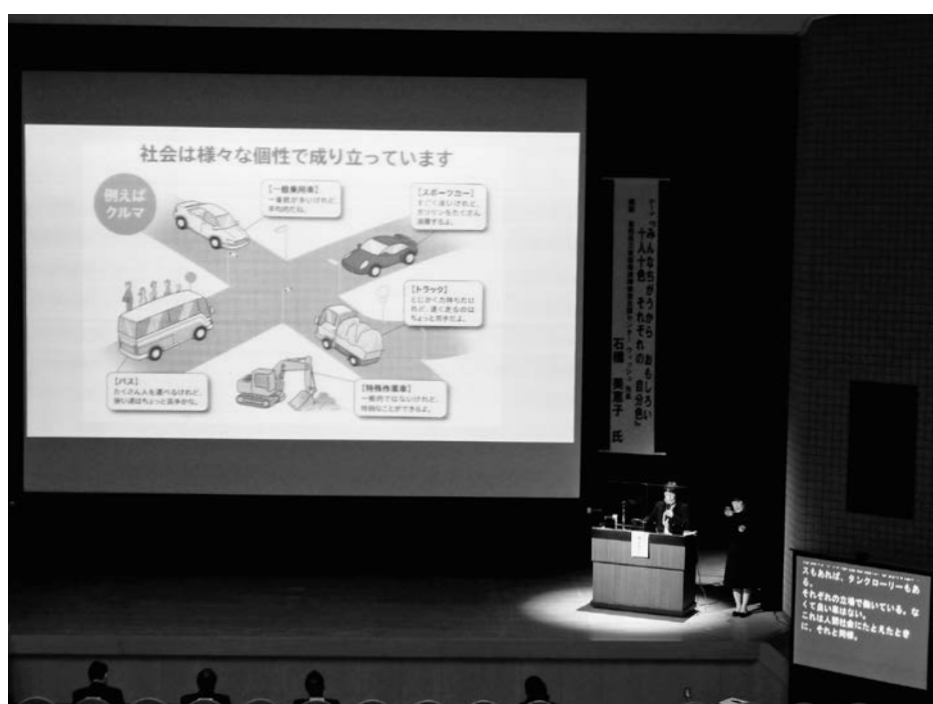
この研修会は、本連合会も構成員となっている島根県幼こども園・小中・高・特別支援PTA連絡協議会と島根県教育委員会が共催し、企画・運営を行っています。

今年度はコロナ禍において、開催方法の検討、会場での感染対策など、例年とは異なる様々な準備をした開催となりましたが、当日は、久々の研修の機会ということもあり、例年を大幅に上回る約210名の方にお集まりいただき、無事に開催することができました。

講師の石橋氏には、特別支援教育の専門的な内容に加え、子どもたち一人一人の個性、成長の捉え方、声のかけ方など、すべての親が大切にしたいことをわかりやくお話していただきました。

情報過多ともいえる時代、子どもたちの成長に過度な期待や不安をもち、目の前の子どもの行動、成長を他の子どもと比較して焦ったり、心配になったりする親も多いと言われます。石橋氏からは、「比較するのは、少し前のその子自身。子どもの成長にはそれぞれのスピードがある。」「一見怠けや無計画にも見える子どもの行動にも、その理由や背景がある。」などのお話をいただき、親子だつとい指摘をしたり、怒ったりしてしまいそうな場面でも、見方や声かけのタイミング、褒める言葉遣いの工夫で、子どもを安心させ、次の成長に導くことができることを、日常生活に置き換え、わかりやすく教えていただきました。

そして、「子どもの安心、安定のためには、親もゆとりをもつこと。一人で悩まずに、周りの人に助けをもらうことも大切。気長に子育てを楽しみましょう。」というメッセージをいただき、参加された方々からも、「コロナ禍において、皆で学ぶ機



会をもてて良かった。」「元気をもらい、前向きな気持ちになりました。」など多くの感想をいただきました。

今後も、保護者として子どもたちの成長を支える上で大切にしたい知識や考え方、学校・家庭・地域の連携やPTAが果たす役割など、研修の機会をもっていきたいと思えます。

●参加者の感想から…

- 子どもたち一人一人が違うこと、それは素晴らしいことで当たり前のこと、そういう思いを抱くことができました。この気持ちで子どもと向き合っていきたいと思いました。
- 自分の子どもに置き換えながら石橋先生の話を聞きました。十人十色で考え方、感じ方がそれぞれあるので、その良いところを見つけて褒めていきたいと思えます。
- PTAや親子活動などでも、子どものいいところを見つけられるような活動を積み重ねていきたいと思いました。

小・中学生総合保障制度

(こども総合保険)

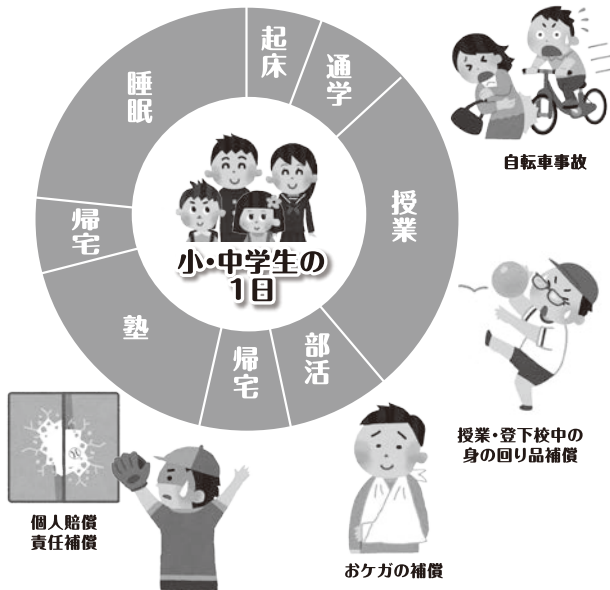
全プラン

新型コロナウイルス感染症に**対応!!**

(詳しくはパンフレットをご確認ください。)

2021年3月現在の内容です。

選べる4プラン (2021年度版)



プラン年間掛金	
ZCプラン	17,000円 (1年分の掛金)
SCプラン	10,000円 (1年分の掛金)
TCプラン	7,000円 (1年分の掛金)
ACプラン	5,000円 (1年分の掛金)

総合保障制度の特長

※プランによってセットされている補償項目は異なります。総合保障制度の詳細に関しましては、パンフレットをご覧になるか引受保険会社にお問い合わせください。

- 補償期間中、1日24時間(学校の休みの日も)補償
(ただし、一部の補償は24時間補償ではありません。)
 - 自転車事故による損害賠償責任も国内無制限補償
 - お子さまがケガをした場合に補償
 - 熱中症、細菌性食中毒、ウイルス性食中毒を補償
 - 特定感染症補償
 - 地震・噴火・津波によるケガを補償
 - 学校の授業・登下校中などにお子さまが携行している身の回り品を補償
(修理費または時価額のいずれか低い金額を補償します。)
 - お子さまの病気入院・手術を補償
 - オンラインで簡単に保険金請求(デジタル保険金請求)
- ※ご利用条件とご利用方法は、加入者証でご案内します。
- 弁護士相談サービス付き

〔取扱代理店・扱者〕
東部地区、大田、邑智郡、隠岐郡、益田、鹿足郡
…(有)マイジ (0120-001-230)
浜田、江津
…(有)コテラ総合保険 (0855-28-2121)

〔引受幹事保険会社〕
AIG損害保険株式会社 山陰支店
松江市伊勢宮町519-1 松江大同生命ビル6F
(受付時間:午前9:00~午後5:00 土日・祝日年末年始を除く)
TEL.0852-26-2781 FAX.0852-26-2776

S-210339 有効期限2022年3月

